

古書（その他） 所蔵目録

番号 208-1 聯合艦隊解散之辭（れんごうかんたいかいさんのじ） JSFJ00118

刊行者 水路部 刊行年月 m39.12 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

番号 208 宮内省への海流関係図誌奉呈資料（くないしょうへのかいりゅうかんけいずしほ JSFJ00009
うていしりょう）

刊行者 水路部 刊行年月 s.15～17 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

水路部が宮内省に奉呈した海流関係図誌・資料が提出目録と共にまとめられている。奉呈は、昭和15年12月が第1回で、昭和17年12月まで5回行われている。その内容は、日本近海や本州南方海面の海流図、昭和8年10月から昭和17年11月までの月ごとの黒潮の変化図、潮岬南方線海流断面図、相模湾海洋観測記録等である
その他に、昭和12年3月26日に昭和天皇が水路部に行幸された時と思われる「水路部現状概要奏上書」、日露戦争終結に伴い決定、発表された明治39年12月21日付きの 聯合艦隊司令長官 東郷平八郎の「聯合艦隊解散之辞」が一緒に収められている。

番号 214 75周年記念関係（75しゅうねんきねんかんけい） JSFJ00010

刊行者 水路部 刊行年月 s.21.10 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

番号 232 日本大玉編 中巻（にほんだいぎょくへん ちゅうかん） JSFJ00011

刊行者 *** 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 漢字辞書（軍教育図書）

漢字の古い書体の漢和辞典。巻之五から巻の八まで部首ごとに説明されている。巻の五と六は、四画、巻之七は五画、巻之八は六画の部首の漢字が記載されている。
漢字辞書（軍教育図書）

番号 238 量地図説 上（江戸時代の測量本解説本）（りょうちずせつ じょう（えどじだいの JSFJ00012
そくりょうぼんかいせつぼん））

刊行者 *** 刊行年月 嘉永05 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

嘉永5年（1852年）刊行の測量の解説図書。図書の寸法は 12.5cm×18.5cmの小型本である。表紙裏に、長谷川善左衛門弘閑・甲斐駒藏 廣永 編・小野友五郎 校と編纂者名がある。地方で測量に当たる者を対象とし、解説の絵・図が要所要所に挿入されていて、初心者にも理解し易いように編集されている。その内容は、測量に使用する測器（正方儀、水縄・野帳・間竿・假標・曲尺）についての詳しい説明、測器の使用方法和測量して得た資料から成果（縮図）を求める方法の順に記述されている。
そして、測量する様子を江戸時代後期の浮世絵師である葛飾為齋が画いた5図の挿絵がある。その絵に測量の要領も書かれている。

番号 250-1 参考品目録 ①（さんこうひんもくろく ①） JSFJ00013

刊行者 水路部 刊行年月 1944 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

参考品目録 ① 水路部保管の参考品を疎開させるために参考品整備委員会が参考品を検討し、選びだした際の表。天文、地磁気等21の種別ごとに、それぞれ資料番号を付して、名称、数量、出所等が表にされている。表は手書きで記入されている。
参考品目録 ② 昭和19年12月太平洋戦争の戦況悪化に伴い、水路部は、参考品の保管の万全を期するため参考品を横浜市港北区大倉山にある大倉精神文化研究所の書庫に疎開させたが、その際の関係文書と参考品名をまとめた表（参考品目録①の内容と同じ、タイプ印刷）が綴られている。表では、参考品を天文、地磁気等の21の種別に分け、名称、数量、出所、参考事項が記載されている。疎開は、2回行われている。

番号 250-2 参考品目録 ②（さんこうひんもくろく ②） JSFJ00014

刊行者 水路部 刊行年月 s.19.11 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

参考品目録 ① 水路部保管の参考品を疎開させるために参考品整備委員会が参考品を検討し、選びだした際の表。天文、地磁気等21の種別ごとに、それぞれ資料番号を付して、名称、数量、出所等が表にされている。表は手書きで記入されている。
参考品目録 ② 昭和19年12月太平洋戦争の戦況悪化に伴い、水路部は、参考品の保管の万全を期するため参考品を横浜市港北区大倉山にある大倉精神文化研究所の書庫に疎開させたが、その際の関係文書と参考品名をまとめた表（参考品目録①の内容と同じ、タイプ印刷）が綴られている。表では、参考品を天文、地磁気等の21の種別に分け、名称、数量、出所、参考事項が記載されている。疎開は、2回行われている。

番号 251

小池部長写真(こいけぶちょうしゃしん)

JSFJ00015

刊行者 水路部

刊行年月 s.16.05

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

第21代水路部長 小池四郎海軍中将(在任期間:昭和12年12月~同16年6月)の写真と小池水路部長が離任時に撮影したと思われる水路部幹部職員との記念写真。

番号 252

伊能忠敬 日本沿岸実測図写図目録(いのうただたか にほんえんがんにっそく
ずうつしずもくろく)

JSFJ00016

刊行者 水路部

刊行年月 s.05

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

伊能忠敬実測図写図を北州、千島列島から九州、南西諸島の五地域に分けて、その図名と、それに対応した現行版海図の番号を表にまとめている。表の中で、○と△の符号を付けた番号と付かない番号がある。○印は原図と同じもの(6葉)、△印は陸測図式を採用し縮図せるもの(70葉)、符号なしは測量用に使用する関係で原図を縮図又は併合せるもの(85葉)、他に符号なしが4葉となっている。また、昭和5年11月2日の柳少将胸像除幕式に伊能図2枚とそれに対応する現行版海図2枚を陳列したという記述もある。目録の大きさは、16cm×24cmで、海軍と印刷された封紙に黒・赤色インクで手書きされている。

番号 254

参考品目録 伊能図目録(水路部保管伊能氏日本実測図謄写図について)(さ
んこうひんもくろくいのおうずもくろく(すいろぶほかんいのおうしにほんじっそくずとう

JSFJ00017

刊行者 ***

刊行年月

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考 海軍時代の由来記述あり複製1冊あり

赤色の封筒の中に「水路部保管伊能氏日本実測図謄写図に就いて」と「伊能家蔵書目録」が収められている。

○「水路部保管伊能氏日本実測図謄写図に就いて」

伊能氏日本実測図謄写図144葉を水路部が保管する所以とその目録が記述されている。

所以: 日本地図の基本ともなり、外国出版図にも採用された貴重な伊能氏の日本実測図300余葉を初代水路部長柳愷悦は水路部測量予定・計画に利用するために、内務地理局から借用して明治10年から11年に殆どを写し、大いに利用したが、大正12年の関東大震災で焼失した。之とは別に水路部第二課に於いて参考に謄写した6葉と図積が大なる日本実測図を携帯用にした平面図又は其の儘縮図した144葉は災害に合わなかった。謄写図とはいえ、日本地図として、又水路部海図の変遷を知る上で貴重な文献であるので、表装を新たにして保管する。

目録: 地域別に整理番号、番号、実測図の図名、実測図に関係する現行版海図の番号が表にされている。図の数は、144葉に4葉が加えられて148葉ある。

○「伊能家蔵書目録」

千葉県図書館の小原大衛氏が昭和3年10月に作製した伊能家に保存されている蔵書の目録。その目的は、測地事業に一大功績を残した北総が生んだ偉人伊能忠敬が精力を傾けて尽くして作製した地図・著書・記録をまとめて広く公表するため、その内容は実測地図(測量年、地域名、地図名、縮尺、図積等)、著書及び記録、観測器械等多岐に亘っている。冊子の大きさ、9cm×12.5cmである。海軍時代の由来記述あり 複製1冊あり

番号 255

東郷元帥手記戦時懐中手帳(とうごうげんすいしゅきせんじかいちゅうてちょう)

JSFJ00018

刊行者 海軍有終会

刊行年月 s.10

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

聯合艦隊司令長官東郷平八郎元帥の日露戦争時の明治37年2月5日から同年12月15日までの自筆による戦況のメモ集で、携帯に便利な手帳型になっている。内容は、主な海戦の戦況、戦果、被害状況等、明治37年12月24日までの死傷者数、主な海戦で使用した砲弾・水雷の数量、旅順港に碇泊中の露国の戦艦名・司令長官名等が記述されている。海軍有終会が昭和10年5月27日に発行したもので、No. 40の整理番号が付されている。手帳の大きさは、8cm×12cmである。

番号 256

山陰前栗(さんいんまえつくり)

JSFJ00019

刊行者 水路部

刊行年月 m.39

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考 謝恩記念本(水産関係を収集)(御木本→柳)

明治40年1月15日の柳愷悦の第十七年忌に当たり、柳愷悦の指導・奨励により真珠養殖場の開祖となった御木本幸吉が謝恩の記念として明治39年12月に石川洋之助、陶山清猷と図って、柳愷悦の遺稿の中から「山陰落栗」と題した全24巻中の水産及び料理に関する第一巻及び第十八巻を選出して上梓したもの。日本各地の水産物(魚・貝など)、それを利用した製品・料理及び味を紹介し、茶寮にて会席料理を嗜む際の心得や季節ごとの会席料理のお品書の例が記述されている。

謝恩記念本(水産関係を収集)(御木本→柳)

番号 261

青濤集(せいとうしゅう)

JSFJ00020

刊行者 佐藤敬三

刊行年月 s.04

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考 海洋の研究論文(青島海事協会 佐藤圭造著)

青島海事協会の佐藤敬三氏が海事知識の普及・発展を図るために作製した図書。
海洋の研究論文(青島海事協会 佐藤圭造著)

番号 263-1

南島記事 上(みなみしまきじ じょう)

JSFJ00021

刊行者 後藤敬臣

刊行年月 m.19.07

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

古代から明治12年までの南島=琉球の歴代王家の歴史を各王ごとに纏めたもの。
上は、古代の天孫・舜天王、英祖王、察度王、第一尚思詔王の内、尚思詔王から徳王まで
中は、第一尚思詔王の内、円王(1469~1476年)から寧王(1589~1620年)まで
下は、第二尚思詔王の内、豊王(1621~1640年)から秦王(1841~1879年)までが記述されている。

番号 263-2 南島記事 中 (みなみしまきじ ちゅう) JSFJ00022

刊行者 後藤敬臣 刊行年月 m.19.07 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

古代から明治12年までの南島＝琉球の歴代王家の歴史を各王ごとに纏めたもの。
上は、古代の天孫・舜天王、英祖王、察度王、第一尚思詔王の内、尚思詔王から徳王まで
中は、第一尚思詔王の内、円王(1469～1476年)から寧王(1589～1620年)まで
下は、第二尚思詔王の内、豊王(1621～1640年)から秦王(1841～1879年)までが記述されている。

番号 263-3 南島記事 下 (みなみしまきじ げ) JSFJ00023

刊行者 後藤敬臣 刊行年月 m.19.07 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

古代から明治12年までの南島＝琉球の歴代王家の歴史を各王ごとに纏めたもの。
上は、古代の天孫・舜天王、英祖王、察度王、第一尚思詔王の内、尚思詔王から徳王まで
中は、第一尚思詔王の内、円王(1469～1476年)から寧王(1589～1620年)まで
下は、第二尚思詔王の内、豊王(1621～1640年)から秦王(1841～1879年)までが記述されている。

番号 264-1 南島記事 外編 乾 (みなみしまきじ がいへん けん) JSFJ00024

刊行者 西村捨三 刊行年月 m.19.05 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

南島＝琉球の歴史を記述した図書。
乾は、太古に琉球への奄美諸島、土?喇列島、大隅諸島からの人の往来、琉球王の成立・国分け・統治、宮古島・八重山諸島の統一、慶長の役頃までの沖縄の事情である。
坤は、英・佛・米国の艦船の渡来、沖縄県統計表抜粋之一(各地区の村数・戸数・人口・家畜数)、沖縄県統計表抜粋之二(各地区の米・麦・雑穀・蕃薯・砂糖の生産量)、沖縄県統計表抜粋之三(各地区の焼酎・木綿布・紬・細上布・芭蕉布・漆器の生産量)、農民の概況、衣食住等日用の風俗・風習、貿易概況等が記載され、幕末頃から明治にかけての事柄である。

番号 264-2 南島記事 外編 坤 (みなみしまきじ がいへん こん) JSFJ00025

刊行者 西村捨三 刊行年月 m.19.05 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

南島＝琉球の歴史を記述した図書。
乾は、太古に琉球への奄美諸島、土?喇列島、大隅諸島からの人の往来、琉球王の成立・国分け・統治、宮古島・八重山諸島の統一、慶長の役頃までの沖縄の事情である。
坤は、英・佛・米国の艦船の渡来、沖縄県統計表抜粋之一(各地区の村数・戸数・人口・家畜数)、沖縄県統計表抜粋之二(各地区の米・麦・雑穀・蕃薯・砂糖の生産量)、沖縄県統計表抜粋之三(各地区の焼酎・木綿布・紬・細上布・芭蕉布・漆器の生産量)、農民の概況、衣食住等日用の風俗・風習、貿易概況等が記載され、幕末頃から明治にかけての事柄である。

番号 268 揚子江に就いて(上) (ようすこうについて(じょう)) JSFJ00026

刊行者 水路部 刊行年月 s.17 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 中華民国

民国30年2月に麻田海軍中佐が「揚子江」について講演した記録。内容は、揚子江の江源から江口に至るまでの地形、気象などについての概略、水量について季節ごとの変化量・それに対応した施設(航路標識、堤防、荷揚げ場など)の建設・変動観測のための水標柱や驗潮所の設置、流れによる浸食と堆積、航路及び航路標識の維持・管理とその告示や海図の作成について具体例などを織り交せて述べている。本の表紙に民国30年2月として、海軍部水路測量局士官養成所とあるが、それに対応する西暦年と組織の所属が不明である。
中華民国

番号 271 八丈島概観 (はちじょうじまがいかん) JSFJ00028

刊行者 水路部 刊行年月 s.04 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

東京府が昭和4年5月に発行した八丈島についての概観。島の沿革に始まり、地勢、気象、鎌倉時代以降の行政・財政の変遷、土木施設(道路、港湾、水利、電気事業)、産業(農業、蚕業、林業、水産業、畜産業、工業、商業)交通及び通信、社寺及び宗教、風俗、教育、兵事、衛生、渡島人及び流罪人、歴代の支配代官、支廳長、官庁、学校、名所旧跡などの順にまとめられている。

番号 273 戦時下の水路部座談会 (せんじかのすいろぶざだんかい) JSFJ00029

刊行者 文芸春秋社 刊行年月 s.18 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

文芸春秋社発行の「大洋」からの転載で、15cm×21.5cmの小冊子。座談会の出席者は、水路部職員で軍人は海軍大佐 山川幾蔵氏等5名、海軍技師の桑原新氏等2名で、文芸春秋社の記者が司会している。水路部とはどんな所か、困難な測量と観測、性格な航空図と海図、海象と気象の観測、作戦と気象の関係、戦う水路部、測量艦とはどんな艦か、第一戦の測量隊、比島水路啓開隊、前線へつながる仕事について出席者が発言している。

番号 310 第1回臨時国際水路会議決議事項捕録(だい1かいりんじこくさいすいろかいぎ けつぎじこうほろく) JSFJ00030

刊行者 水路部 刊行年月 s.04 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

昭和4年(1929年)に開催された第一回臨時国際水路会議で決議された海図、水路誌、燈台表、水路告示、一般水路図誌に共通な問題等に關する56事項が記載され、各事項に対する日本水路部の方針、意見が詳しく述べられている。

番号 311 黄海、東海、南支那海方面冬季季節風及天気の特性(こうかい、とうかい、みなみしなかいほうめんとうききせつふうおよびてんきのとくせい) JSFJ00031

刊行者 水路部 刊行年月 s.12 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

中国沿岸の黄海、東海、南支那海方面の冬季に於ける気象について述べた解説書。内容は、当方面の冬季の特徴のある気象の概説、月別気圧配置と主風との関係、気圧配置の型と季節風及び天気との関係、季節風の機構、大陸台風及び当方面に発生する低気圧の季節風及び天気に及ぼす影響等が気圧配置図と共に具体的に述べられている。水路部刊行の日本近海気象図、部内艦船の報告、中央気象台刊行の北支及び南支気象調査概報、支那国立中央研究所刊行の気象研究所集刊、海洋気象台刊行の北太平洋の気象等を基に編集されている。表紙に 秘、用済後焼却と印刷されている。

番号 320 元冶新版 大日本道中細見記(げんじしんばん だいにほんどうちゅうさいけん き) JSFJ00032

刊行者 *** 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

江戸時代の旅行案内地図。携帯に便利な様に小型で、折りたたみ式になっている。大きさは、9cm×17.5cmで、広げると285cm×35cmになる。地図の範囲は、北は箱館、松前、西は對馬、平戸、五嶋、南は琉球まで。見出合文で地図で使用している記号が説明されており、その記号に国名・御城下・有名な社寺・宿名・国境・本街道・間道・関所・西国四国礼所・水路が記入されている。御城下には藩名・藩主名・石高・江戸からの距離が示され、隣り合った宿名間の距離、各宿の入足賃等も書かれている。

番号 323-1 航海夜話 初編 上(こうかいはわ しょへん じょう) JSFJ00033

刊行者 *** 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 読物本

原書は、「ゲスプレッケン ヲーフル ヲルカー子」で、これを西江舎主人が明治5年に「航海夜話」と題して発行した訳本。初篇上・下、二編上・下の四冊から成るが、二編上が欠けている。暴風などに関する事を船乗りが理解し易いように解説した書。船の運航について知識・経験が豊富な船頭頭、それを補佐する老年の船頭、そしてその下で仕事に励む乗組員を登場させて、乗組員が安全な航海に必要な知識を得ようと質問をし、それに船頭頭、船頭 が具体的な例を挙げながら応答する筋書きになっており、学問の浅い乗組員でも理解し易い内容になっている。
読物本

番号 323-2 航海夜話 初編 下(こうかいはわ しょへん げ) JSFJ00034

刊行者 *** 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

原書は、「ゲスプレッケン ヲーフル ヲルカー子」で、これを西江舎主人が明治5年に「航海夜話」と題して発行した訳本。初篇上・下、二編上・下の四冊から成るが、二編上が欠けている。暴風などに関する事を船乗りが理解し易いように解説した書。船の運航について知識・経験が豊富な船頭頭、それを補佐する老年の船頭、そしてその下で仕事に励む乗組員を登場させて、乗組員が安全な航海に必要な知識を得ようと質問をし、それに船頭頭、船頭 が具体的な例を挙げながら応答する筋書きになっており、学問の浅い乗組員でも理解し易い内容になっている。

番号 323-3 航海夜話 初編 二編下(こうかいはわ しょへん にへんげ) JSFJ00035

刊行者 *** 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

原書は、「ゲスプレッケン ヲーフル ヲルカー子」で、これを西江舎主人が明治5年に「航海夜話」と題して発行した訳本。初篇上・下、二編上・下の四冊から成るが、二編上が欠けている。暴風などに関する事を船乗りが理解し易いように解説した書。船の運航について知識・経験が豊富な船頭頭、それを補佐する老年の船頭、そしてその下で仕事に励む乗組員を登場させて、乗組員が安全な航海に必要な知識を得ようと質問をし、それに船頭頭、船頭 が具体的な例を挙げながら応答する筋書きになっており、学問の浅い乗組員でも理解し易い内容になっている。

番号 348 有栖川元帥宮殿下御銅像関係資料(ありすがわげんすいみやでんかごどうぞう かんけいしりょう) JSFJ00037

刊行者 水路部 刊行年月 m.39 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

大正10年12月24日に完成した故有栖川元帥宮殿下の銅像建設に関する書類が綴られている。その内容は、銅像建設旨趣書、除幕式辞、建設費用抛出者への建設・竣工の報告書、銅像台座新築工事仕様書等である。これ等の原本は、防衛省防衛研修所戦史室に保存されており、昭和42年4月に水交会からの要請により複製されたという文書も一緒に綴られている。建設発起者は、海軍大将 伯爵 東郷平八郎である。

番号 350 海軍水路部修技所案内 (かいぐんすいろぶしゅうぎしょあんない) JSFJ00038

刊行者 水路部 刊行年月 s.20 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 施設、建物、船艇、兵器等

昭和20年の水路部修技所生徒の募集案内である。内容は、水路部の沿革・福利施設・水路部作業概要・卒業後の進路を述べた後に、生徒志願心得がある。それには、募集人数・応募資格・採用試験科目・試験地・身体検査規格表・水路部修技所及び寄宿舎の所在地等が記載されている。警戒警報発令中と雖も試験を施行する、卒業後は海軍軍属となる等、太平洋戦争中ならではの記述もある。
施設、建物、船艇、兵器等

番号 353-1 北水協会報告 第57号 (ほくすいきょうかいほうこく だい57ごう) JSFJ00039

刊行者 北水協会 刊行年月 m.23.10 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

北海道水産の改良進歩を図るために有志者が結合して結成した北水協会が、会員の論説、演説通信、質疑応答、有益な水産上の事項等を編集して、毎月一回会員に頒布した月刊誌。57号及び58号の内容は、月次会・地方会・本会の要録、演説、各県等の漁業概況、会員からの質問、昆布営業聯合組合の記事、水産物の取引価格、海外の漁業事情等が記載されている。57号には会員が第三回内国観業博覧会に出品した統計表等が2等賞になったという広告があり、その審査部長に従三位勲二等 柳橙悦の名がある。

第57号
本會記事 明治23年8月16日 月次小集會の要録 9月27日開催の大會の内容
月次會演説 北海道鱈漁業拡張策について
會員からの通信 漁業概況、水産物収穫量など
質疑応答 布海苔採取季・製法、釣り針の焼付法など
昆布営業聯合組合記事 各組合採取概況など
漁業時事 太平洋の鯨蠟、鯨の害など
水産物商業 横浜海産物売込商について 函館港水産物相場など

番号 353-2 北水協会報告 第58号 (ほくすいきょうかいほうこく だい58ごう) JSFJ00040

刊行者 北水協会 刊行年月 m.23.11 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

本會記事 明治23年10月18日 月次小集會の要録
月次會演説 北海道鱈漁業拡張策について(承前)、北海道の水産改良について
會員からの通信 漁業概況、水産物収穫量、海外輸出水産物など
質疑応答 魚油より蠟を分離する簡便法、魚油の臭気を除去する簡便法
昆布営業聯合組合記事 大阪における昆布の商況
漁業時事 米国水産調査船の報告、佛国の漁業奨励金など
水産物商業 米国水産物新税案、函館における支那商人の挙動など

番号 354 軍機関係綴(沖ノ鳥島)(ぐんきかんけいつづり(おきのとりしま)) JSFJ00041

刊行者 水路部 刊行年月 s.08.05 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 教育参考館所蔵資料名と解説・写真

特務艦膠州が昭和8年(1933年)4月21日から4月23日まで行った沖ノ鳥島沿岸測量及び6月7日から7月1日まで行ったメロン島の掃海・水深測量結果の報告が綴られている。
教育参考館所蔵資料名と解説・写真

番号 356-1 海防憶測 乾(かいぼうおくそく けん) JSFJ00042

刊行者 古賀侗庵 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 海防関係

ロシア問題に深い関心を持っていた江戸時代後期の儒者 古賀?庵(1788~1847、肥前・佐賀藩士)が、日本の海防特にロシアに対する備えの必要とその方法を述べている。漢文で書かれている。
海防関係

番号 356-2 海防憶測 坤(かいぼうおくそく こん) JSFJ00043

刊行者 古賀侗庵 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

ロシア問題に深い関心を持っていた江戸時代後期の儒者 古賀?庵(1788~1847、肥前・佐賀藩士)が、日本の海防特にロシアに対する備えの必要とその方法を述べている。漢文で書かれている。

番号 359 朝鮮国南海島航行日記(ちょうせんこくなんかいとうこうこうにつき) JSFJ00044

刊行者 海軍省水路寮 刊行年月 m.09.03 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

韓国の江華島沖で軍艦雲揚が発砲されたことで日韓間が紛糾した際、釜山に居留する日本人保護のため派遣された鳳翔が、水路事情が不確実な韓国の鎮守島嶼の港灣の所在及び水路の浅深・暗礁の有無等を調査した際の内容と様子を、明治9年3月に鳳翔艦長 山崎海軍少佐が日記風にまとめたもの。和紙の郵紙に筆書きされている。

番号 380 南島タングステン関係写真集 (みなみしまたんぐすてんかんけいしゃしんしゅう) JSFJ00045
刊行者 *** 刊行年月 m.- 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

南シナ海にある南朋島のタングステン採鉱に関する様子を撮った写真集。昭和15年10月31日検閲済 海軍省の印がある。

番号 399 海の日本 (うみのにほん) JSFJ00046
刊行者 博文館 刊行年月 m.35 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

「太陽」を発行している博文館が、創立第15周年を記念して海国としての日本の意義を明らかにするために刊行した臨時増刊号

番号 413 故風間技官寄贈目録 (こかざまぎかんきぞうもくろく) JSFJ00047
刊行者 水路部 刊行年月 s. 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

故風間技官が所蔵されていたと思われる数学(ベクトル解析学、順列論等)、物理及び化学(物質の磁性、電子工学講座、幾何光学等)、気象学、測量学等47冊の書籍の目録

番号 414 小倉文庫図書目録 (おぐらぶんことしょもくろく) JSFJ00048
刊行者 第二部第四課 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

小倉伸吉氏が所蔵されていたと思われる図書目録。その種類は、多岐に亘り、天文(外国図書35冊を含む42冊)、海洋及航海関係(外国図書22冊を含む31冊)、地球物理関係(外国図書5冊を含む14冊)、物理関係(外国図書11冊を含む16冊)、航海表類(外国図書15冊を含む19冊)、化学関係(外国図書2冊を含む4冊)、数学関係(外国図書12冊を含む15冊)、諸記録(外国図書21冊)、雑(外国図書4冊を含む33冊)の計195冊である。

番号 415 海図編 (かいずへん) JSFJ00049
刊行者 水路部 刊行年月 s.15 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 退職記念品(製図用字体)海軍技師 山本元吉

水路部を退職した元海軍技師 山本元吉氏が昭和15年7月に水路部総務課長清田孝彦氏宛てに参考資料として献納したもの。その内容は、明治25年1月 水路部に奉職してから間もなく突発した日清事案について、山本氏が感じた青年の意気を漢文で記したもの。墨の手書きで、書体は楷書で丁寧に書かれている。巻末に桂香、酔石、彪村の諸子の評語がある。
140図の世界地図帳。昭和の刊行物 袋入

番号 418-1 海軍勤務回想 (大田香苗大佐) 五巻之一 (かいぐんきんむかいそう (おおた かなえたいさ) 5かんの1) JSFJ00050
刊行者 大田香苗 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

大正5年から昭和20年の太平洋戦争終戦まで海軍奉職中の大部分を気象に関する教育、調査、研究等の色々な問題に関係者と共に励んだ元海軍大佐大田香苗氏による日本海軍の気象関係事項の記録。五巻之一から五までの5冊にまとめられている。ペン字の手書きである。海軍における気象業務の発足、発展、そして昭和20年8月15日の太平洋戦争終結で海軍気象残務整理班長として連合軍最高司令部の調査に対応した事柄が詳細に述べられている。

番号 418-2 海軍勤務回想 (大田香苗大佐) 五巻之二 (かいぐんきんむかいそう (おおた かなえたいさ) 5かんの2) JSFJ00051
刊行者 大田香苗 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

大正5年から昭和20年の太平洋戦争終戦まで海軍奉職中の大部分を気象に関する教育、調査、研究等の色々な問題に関係者と共に励んだ元海軍大佐大田香苗氏による日本海軍の気象関係事項の記録。五巻之一から五までの5冊にまとめられている。ペン字の手書きである。海軍における気象業務の発足、発展、そして昭和20年8月15日の太平洋戦争終結で海軍気象残務整理班長として連合軍最高司令部の調査に対応した事柄が詳細に述べられている。

番号 418-3 海軍勤務回想 (大田香苗大佐) 五巻之三 (かいぐんきんむかいそう (おおた かなえたいさ) 5かんの3) JSFJ00052
刊行者 大田香苗 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

大正5年から昭和20年の太平洋戦争終戦まで海軍奉職中の大部分を気象に関する教育、調査、研究等の色々な問題に関係者と共に励んだ元海軍大佐大田香苗氏による日本海軍の気象関係事項の記録。五巻之一から五までの5冊にまとめられている。ペン字の手書きである。海軍における気象業務の発足、発展、そして昭和20年8月15日の太平洋戦争終結で海軍気象残務整理班長として連合軍最高司令部の調査に対応した事柄が詳細に述べられている。

番号 418-4 海軍勤務回想（大田香苗大佐）五巻之四（かいぐんきんむかいそう（おおたかなえたいさ）5かんの4） JSFJ00053

刊行者 大田香苗

刊行年月

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

大正5年から昭和20年の太平洋戦争終戦まで海軍奉職中の大部分を気象に関する教育、調査、研究等の色々な問題に関係者と共に励んだ元海軍大佐大田香苗氏による日本海軍の気象関係事項の記録。五巻之一から五までの5冊にまとめられている。ペン字の手書きである。海軍における気象業務の発足、発展、そして昭和20年8月15日の太平洋戦争終結で海軍気象残務整理班長として連合軍最高司令部の調査に対応した事柄が詳細に述べられている。

番号 418-5 海軍勤務回想（大田香苗大佐）五巻之五（かいぐんきんむかいそう（おおたかなえたいさ）5かんの5） JSFJ00054

刊行者 大田香苗

刊行年月

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

大正5年から昭和20年の太平洋戦争終戦まで海軍奉職中の大部分を気象に関する教育、調査、研究等の色々な問題に関係者と共に励んだ元海軍大佐大田香苗氏による日本海軍の気象関係事項の記録。五巻之一から五までの5冊にまとめられている。ペン字の手書きである。海軍における気象業務の発足、発展、そして昭和20年8月15日の太平洋戦争終結で海軍気象残務整理班長として連合軍最高司令部の調査に対応した事柄が詳細に述べられている。

番号 419-1 英文鑑 一（えいぶんかん 1） JSFJ00055

刊行者 リンドレー・マレー

刊行年月 天保11.10

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

「英文鑑」は、天保11年(1840年)に天文方見習・澁川敬直が英国人リンドレー・マレー著の英文法図書「EnglishGrammar」蘭訳本を重訳したもの。上下二編・4冊から成る。巻末に本書は3部浄書され、1部は幕府に献上、1部は天文方に備え、残りが澁川家が所蔵した。幕府献上本はその後所在不明、天文方備え本は安政初年、蕃書調書に遷り、開成所に伝え、その後東京大学図書館蔵となったが、関東大震災に焼失、現物1冊の澁川家所蔵本の不慮の事を考慮して、昭和3年(1928年)に復刻するとあるので、本書はその内の1冊かと思われる。また、明治になってから復刻版が発行されるまでの悲喜こもごものエピソードも書かれている。

番号 419-2 英文鑑 二（えいぶんかん 2） JSFJ00056

刊行者 リンドレー・マレー

刊行年月

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

「英文鑑」は、天保11年(1840年)に天文方見習・澁川敬直が英国人リンドレー・マレー著の英文法図書「EnglishGrammar」蘭訳本を重訳したもの。上下二編・4冊から成る。巻末に本書は3部浄書され、1部は幕府に献上、1部は天文方に備え、残りが澁川家が所蔵した。幕府献上本はその後所在不明、天文方備え本は安政初年、蕃書調書に遷り、開成所に伝え、その後東京大学図書館蔵となったが、関東大震災に焼失、現物1冊の澁川家所蔵本の不慮の事を考慮して、昭和3年(1928年)に復刻するとあるので、本書はその内の1冊かと思われる。また、明治になってから復刻版が発行されるまでの悲喜こもごものエピソードも書かれている。

番号 419-3 英文鑑 三（えいぶんかん 3） JSFJ00057

刊行者 リンドレー・マレー

刊行年月

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

「英文鑑」は、天保11年(1840年)に天文方見習・澁川敬直が英国人リンドレー・マレー著の英文法図書「EnglishGrammar」蘭訳本を重訳したもの。上下二編・4冊から成る。巻末に本書は3部浄書され、1部は幕府に献上、1部は天文方に備え、残りが澁川家が所蔵した。幕府献上本はその後所在不明、天文方備え本は安政初年、蕃書調書に遷り、開成所に伝え、その後東京大学図書館蔵となったが、関東大震災に焼失、現物1冊の澁川家所蔵本の不慮の事を考慮して、昭和3年(1928年)に復刻するとあるので、本書はその内の1冊かと思われる。また、明治になってから復刻版が発行されるまでの悲喜こもごものエピソードも書かれている。

番号 419-4 英文鑑 四（えいぶんかん 4） JSFJ00058

刊行者 リンドレー・マレー

刊行年月

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

「英文鑑」は、天保11年(1840年)に天文方見習・澁川敬直が英国人リンドレー・マレー著の英文法図書「EnglishGrammar」蘭訳本を重訳したもの。上下二編・4冊から成る。巻末に本書は3部浄書され、1部は幕府に献上、1部は天文方に備え、残りが澁川家が所蔵した。幕府献上本はその後所在不明、天文方備え本は安政初年、蕃書調書に遷り、開成所に伝え、その後東京大学図書館蔵となったが、関東大震災に焼失、現物1冊の澁川家所蔵本の不慮の事を考慮して、昭和3年(1928年)に復刻するとあるので、本書はその内の1冊かと思われる。また、明治になってから復刻版が発行されるまでの悲喜こもごものエピソードも書かれている。

番号 425 日本海軍艦船名考（にほんかいぐんかんせんめいこう） JSFJ00060

刊行者 浅井将秀（東京水

刊行年月 s.03

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

明治維新から昭和初期までに日本海軍に所属した艦船363隻の記録。海軍入籍の年次順に艦船名とその由来、艦船の種別、竣工年月、製造所、性能、経歴、在籍の終始等を各艦船ごとに詳細に記述されている。水路業務に従事した、武蔵、春日、丁卯、大和、松江、駒橋、膠州もある。巻末に艦船の種別・艦艇及特務艦艇の類別等級・各時代に於ける現有勢力(大要)を記した艦船種類別標準?要の表がある。

番号 427 ROCKET-BOOK of USEFUL FORMULE and MEMORANDA (ROCKET-BOOK of USEFUL FORMULE and MEMORANDA) JSFJ00061

刊行者 ギルホード L. モリス 刊行年月 -
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

土木・機械技師に必要な公式と解説をまとめた、携帯型の本である。著者は、ギルホード L. モリスワース卿。初版の発行年は1862年(文久2年)11月、本書は第22版の増補・改訂版である。本の大きさは、縦8cm、横13cmの小型本である。内容は、土木技師、機械技師が業務に必要な公式や関連した解説などが業種別ごとに記載されており、代数学、微積分学、計算に使用する対数表なども含めて733ページに亘ってまとめられている。

番号 436 海軍天覧記 巡幸水路日誌 (かいぐんてんらんき じゅんこうすいろにつし) JSFJ00062

刊行者 兵部省海軍部水路局 刊行年月 m.04
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

明治天皇をお迎えして行われた海軍の操練、明治天皇の巡幸を日誌風に纏めたもの。その内容は、
① 明治4年11月2日に品川沖で行われた操練の天覧。御召し艦は龍驤で、参加艦艇は筑波、第一丁卯、第二丁卯、孟春、春日、日進、鳳翔、千代田、甲鐵の10隻である。祝砲21発、乗組員の橋上からの祝声、軍楽隊の演奏、侍従及び各艦艇の幹部名、操練の様子、天候等が詳細に記されている。
② 明治4年11月20日から11月23日に横須賀の猿島付近で行われた艦砲の射撃訓練の天覧。天皇は、品川沖を龍驤で発たれて横須賀へ。海上に風浪がある中で訓練を天覧される。参加艦艇は、龍驤等10隻で、侍従及び各艦艇の幹部名、訓練の様子、横須賀製作場巡覧の事も書かれている。
③ 明治5年5月23日から7月12日に明治天皇が行われた京坂山陽西海方面の巡幸。御召し艦は龍驤で、その警衛は日進等8隻である。5月23日に品川沖を出港。巡幸の経路は、本州南岸を西航して鳥羽、大阪、京都に寄り、瀬戸内海を西航して関門海峡に入り、下関に寄る。更に玄界灘を進んで長崎へ。長崎からは陸行で熊本へ。熊本からは、再び龍驤に乗艦して鹿児島へ。日向灘を北上して豊予海峡を航行して瀬戸内海に入り丸亀に寄り、瀬戸内海を東航して神戸へ。紀伊水道を通過して本州南岸を東航して7月12日に横浜着。横浜から火輪車で帰京されている。その間の御巡幸の様子が詳しく書かれている。巡幸の途中は、未測量の海域が多く、海図も未整備のため柳橙悦が水路職員と航行水域を先行しながら測量をして御召艦を先導したことも書かれている。

番号 441 用字索引(附海図式)(ようじさくいん(ふかいずしき)) JSFJ00063

刊行者 水路部 刊行年月 s.16
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

海図に記入する数字、英字及び漢字の基本の型、暗岩や礫浜等の記号や略語を纏めた小型本

番号 443 印刷術概要、製版術概要講義文案(いんさつじゅつがいよう、せいはんじゅつがいようこうぎぶんあん) JSFJ00064

刊行者 水路部 刊行年月 s.16
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

民国29年(昭和15年=1940年)12月作成の海軍部水路測量局士官養成所のテキスト。西洋紙にガリ版刷りである。

番号 444-1 写真製版術講義文案(しゃしんせいはんじゅつこうぎぶんあん) JSFJ00065

刊行者 棚橋 技師 刊行年月
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

民国30年(昭和16年=1941年)4月作成の海軍部水路測量局士官養成所のテキスト。西洋紙にガリ版刷りである。

番号 444-2 写真術講義文案(しゃしんじゅつこうぎぶんあん) JSFJ00066

刊行者 阿部 技手 刊行年月
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

民国30年(昭和16年=1941年)4月作成の海軍部水路測量局士官養成所のテキスト。西洋紙にガリ版刷りである。

番号 445 湖北漢水図説(こほくかんすいずせつ) JSFJ00067

刊行者 *** 刊行年月 m34
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

湖北省を流れ漢口で揚子江に合流する漢川の流域を図を掲げて説明した書物。光緒27年辛丑春(明治34年、1901年)発行で、和紙に印刷されている。図は五里四方のメッシュで区切られている。

番号 479

元和航海記 (げんなこうかいき)

JSFJ00068

刊行者 池田与衛門入道好運 刊行年月 元和4年
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

池田与衛門入道好運が航海に必要な天文学等についてポーランド人のマノエル・ゴンザロから学んだことを 著した本。
元和四年(1618年)序となっている。内容の概要は、天文について

1. 年を4年ごとに区分したグループに分けて、28年に亘る毎月、毎日の正午の太陽の赤緯と、曜日を記載した表(この表により求めた正午の太陽の赤緯と、正午の太陽の高度を測定して、算出した太陽の天頂距離から船の緯度が分かる)
 2. 四ツノデキリナサン 2月・5月・8月・11月の太陽の運行について簡単な説明。
 3. ガラブノツモリ 世界の周りを360ガラブ。ガラブ一つを60に割り、一つをミヌウト、ガラブ一つは西洋では17里半、日本では41里31町6反5間3尺5寸等の説明。
 4. 日ノ時正 4年ごとに1日の間日を加える。
 5. 日ヲトル事 正午の太陽の高度測定について
 6. 1年を365日5時44分、4年に1日の間日を加える。
 7. 羅針盤、天体を測定する四分儀等を示す図、7図あり。
 8. 西暦年と日本の干支及び朔・望の日付
- 航海について(航路、気象等についての水路記事)
1. 長崎ヨリ天川へノ乗前
 2. 天川ヨリ日本へノ乗前
 3. シャムラウヨリノ乗前
 4. 乗船ノケ条 航海・気象・海象などについて、船乗りとして必要な心得がケ条書きに記述されている。
 5. ヒラウトノ路ノリノ事 西洋と日本の距離の単位の比較など

番号 482

PACIFIC COAST COAST PILOT (PACIFIC COAST COAST PILOT)

JSFJ00069

刊行者 *** 刊行年月 1889
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

番号 483

歴代水路部長写真集 (れきだいすいろぶちょうしゃしんしゅう)

JSFJ00070

刊行者 水路部 刊行年月 m.22
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

第21代水路部長までの写真が纏められている。ただし、初代水路部長 海軍少将 柳権悦、第5代水路部長 海軍少将 松本 和、第18代水路部長 海軍中将 植村 茂夫の写真が抜けている。

番号 489

東京築港計画書 (とうきょうちっこうけいかくしょ)

JSFJ00071

刊行者 水路部 刊行年月 m.32.02
備考

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

内務省二等技師 沖野忠雄、東京市區臨時委員 海軍大佐 肝付兼行が東京市區政改正委員長 芳川顕政へ提出した東京築港設計用材料集輯手続書。品川湾深淺測量調査の依頼及びその測量結果を東京府が保存する明治14年に海軍が行った測量成果と比較して、水深の変化を知りたい事が述べられている。測量調査は、深淺測量と潮流調査を海軍省に、地質調査を農商務省等に依頼したいとも書かれている。

番号 493

中濱万次郎 亜米利加学之儀伺書 その他 (なかはままんじろう あめりかがく のぎょうかがいしょ そのた)

JSFJ00072

刊行者 *** 刊行年月 安政04
備考 140図の世界地図帳。昭和の刊行物 袋入

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

中濱万次郎に関する文書2通を解説も付してタイプ印刷したもの。

- ① 講武所頭御使番 鶴殿十郎左衛門から家來の中濱万次郎が亜米利加學問の教授願いがある事、またその教えを請う者への対応について 江川太郎左衛門から御勘定所へ提出された伺書。それに対する返書が見当たらないが、許可された事と察せられると解説されている。
 - ② 安政2年(1855年)12月、幕府が米人イ・シ・プラントが著した航海書の翻訳を中濱万次郎に命じたこと。韮山形御船其の他の製造懸の多忙な仕事の中、中濱万次郎は昼夜丹精を込めて翻訳に努め、「亜美理加合衆国航海學書」と命名して幕府に提出したこと。航海曆を使用した航海法、海岸の測量法、六分儀の使用法等についても指示があれば翻訳する意思がある事等が書かれている。
- 140図の世界地図帳。昭和の刊行物 袋入

番号 558

CASSELL'S NEW ATLAS (CASSELL'S NEW ATLAS)

JSFJ00073

刊行者 *** 刊行年月
備考 第二区域を第一区域に編入し、約1600版の海図発行の計画、見積書

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

GEORGE PHILIP, F. R. G. Sが編集、英国のCASSELL AND COMPANY, LIMITEDが発行した世界地図集。第7版である。

番号 559

大日本海運展覧会 (於東京高島屋S8.7.22~8.25) (だいにっぽんかいうんてんらんかい (けるとうきょうたかしまやS8.7.22~8.25))

JSFJ00074

刊行者 水路部 刊行年月 s.08
備考 関東防空大演習記念。海軍大演習観艦式記念

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

昭和8年8月、海軍特別大演習、東京を中心にした関東防空演習が実施された際に海軍協会が海国精神の激励、海防知識の普及徹底を図るため、7月22日から8月25日まで東京高島屋デパートで開催した大日本海軍展覧会を紹介した記念本。陳列品の名称や写真、その略述等を詳解している。
関東防空大演習記念。海軍大演習観艦式記念

番号 560 第一区域拡張部海図完成についての計画書綴(だいいちくいきかくちょうぶか
いずかんせいについてのけいかくしょつづり) JSFJ00075

刊行者 *** 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 水路部案内(90、100年記念)他

海図の刊行区域、第一区域の拡張に伴う増員及び必要な材料に関する概略調査資料。第二区域を第一区域に編入して英国海図を覆版完成するための計画書。編入する海図の数量、作業内容、必要な製図手の増人数、完成までの期間、予算等が細かく書かれている。作業期間については、「...概して4ヶ年ノ事業ニスレバ明治30年ニ起コレバ明治33年ニ終ル筈ナレドモ此時期中ニハ大改正等モアリテ...」と書かれている。この事から、この計画書は明治30年直前に作成されたものと思われる。
水路部案内(90、100年記念)他

番号 561 海軍七十年史談(かいぐんななじゅうねんしだん) JSFJ00076

刊行者 澤艦之丞(文政同志) 刊行年月 s.17 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

澤艦之丞氏が昭和9年3月から昭和17年3月に至る8ヶ年間に水交社記事又は海軍有終会の雑誌「有終」に記述した昔話の中から25種を選定して編集されている。嘉永六年六月三日米国からの使節来航から始まり、江戸幕府による海軍の創設に至るまでの由来、海外への留学生の派遣とエピソード、海軍兵器の沿革、機械購入の顛末、国歌「君が代」の歌詞選出の由来等、内容は硬軟織り交ぜて豊富である。

番号 563 OUTLINE OF THE HYDROGRAPHIC DEPARTMENT IMPERIAL JAPANESE NAVY (OUTLINE OF THE HYDROGRAPHIC DEPARTMENT IMPERIAL JSFJ00077

刊行者 水路部 刊行年月 s.12 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 英文の水路業務案内

昭和12年(1937年)に水路部67周年を記念して発行された英文の水路部案内
英文の水路業務案内

番号 574 海圖圖式(大韓民国海軍水路局)(かいずずしき(だいかんみんこくかいぐんす
いろきよく)) JSFJ00078

刊行者 大韓民国海軍水路局 刊行年月 1957 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 玄関前での集合写真

韓国水路局発行の海図図式。海図作成の基本事項及び海図に採用されるすべての記号、略語等を集録している。
玄関前での集合写真

番号 576 海軍兵学校教育参考館圖録(海軍兵学校)(かいぐんへいがっこうきょういくさん
こうかんずろく(かいぐんへいがっこう)) JSFJ00079

刊行者 海軍兵学校 刊行年月 s.09 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

新たに教育参考館を新築するにあたり一万点を超える所蔵資料を整理し、それ等資料の広い活用を図るために、主なる物を選定して写真に撮り、解説を付して、系統別に分けて編纂した図鑑。

番号 578 故重松大佐寄贈圖書目録(こしげまつたいさきぞうとしよもくろく) JSFJ00080

刊行者 水路部第二部第五課 刊行年月 s.16 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 重松大佐の遺言により第五課に寄贈された図書

故重松大佐の遺言に依り水路部第二部第五課(海象観測の計画・調査・研究等の実施)に寄贈された海洋、海象、気象、地形、地質等の和・洋書合わせて359冊の図書目録
重松大佐の遺言により第五課に寄贈された図書

番号 580 ロソップ島日食観測行(ろそっぷとうにつしょくかんそくこう) JSFJ00081

刊行者 水路部 刊行年月 s.09 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考 S9.2.14の皆既日食に参加した隊員の日記

昭和9年、ロソップ島で行われた皆既日食観測に従事した班員が、昭和9年1月15日に横浜を出港、2月14日に観測に成功、3月3日横須賀入港まで、毎日輪番に10幾人の手に依って書き綴られた日記。参加者は、観測隊員が東京天文台・東京帝国大学・京都帝国大学・文部省・水路部・海軍技術所・逓信省の職員、米国人の33人、その他に水路部官役人夫7人、派遣新聞記者7人の計47人である。
S9.2.14の皆既日食に参加した隊員の日記

番号 594 海軍大学講義資料(航海術)(かいぐんだいがくこうぎしりょう(こうかいじゅつ)) JSFJ00082

刊行者 水路部 刊行年月 t.13~15 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

海軍大学校での講義で使用された資料の一部。潮汐、地形と行船法、水路測量術、「ナビエヤ」型錨鎖車、海洋学、海水中に於ける音の速度、F式音響測深儀、エル式音響測深儀、三極真空管特性曲線圖等である。

番号 614

写真集 (しゃしんしゅう)

JSFJ00083

刊行者 水路部

刊行年月 t14,s02,s14

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考 T14,S2,S14

封筒に入った年代不明の集合写真5葉。海象課と書かれた紙片が入っている。
T14,S2,S14

番号 654

計画係参考記録 (けいかくかかりさんこうきろく)

JSFJ00086

刊行者 ***

刊行年月

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考 歴代水路部長、職員集合写真 1袋入り

元海軍技師(後に嘱託)山本元吉氏に関する文書の綴り。

- ① 大正14年7月11日付、河村水路部第一課長よりの「第一課又は水路部として時勢に応じて進むべき新目標又は内に顧みて為さねばならぬ事項」という課題に対する山本元吉氏の意見書
 - ② 昭和2年3月に山本元吉氏が退職の際に、今後の参考に供するために氏が所掌した海図計画に関する業務や規程等の大略を記述した申継書
 - ③ 第一課計画掛嘱託の山本元吉氏が昭和15年2月8日に記述した計画掛参考記録
- 歴代水路部長、職員集合写真 1袋入り

番号 657

写真 (しゃしん)

JSFJ00087

刊行者 ***

刊行年月

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考 昭和18年～20年までの航路部の記録

封筒に入れられた3種類の写真

- ① 歴代水路部長写真(キャビネ版 21枚)
- ② 年代不明の集合写真
- ③ 昭和10年12月と書かれた集合写真

番号 281

水族誌 (すいぞくし)

JSFJ00090

刊行者 海軍省水路局

刊行年月 m17.09

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

紀州藩人 畔田翠山著(文政10年(1827年)序)。著者が諸州を歴訪して調べた水族に関する記録。原稿は十巻に分かれ、これを合本して4冊に綴られていたのを、門人の堀田龍之助が校正、田中芳男が校閲、河原田盛美が再校して、10編に区別し、活版一冊としている。記載されている水族は257種、同種異物は478種となっている。堀田龍之助は、翠山翁は水族を熱心に目視調査されたが、魚類を堀田龍之助は、翠山翁は水族を熱心に目視調査されたが、魚類を嗜まなかったため、味に関しては誤りがあるかもしれないと書いている。

番号 313

大東京町名便覧 (だいてうきょうちょうめいびんらん)

JSFJ00091

刊行者 水路部

刊行年月 s07.10

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

昭和7年10月1日、東京市は荏原郡、豊多摩郡、北豊島郡、南足立郡、南葛飾郡、を東京市に編入し、これらの区域を以て20区を設置、この新設置区内の大字・字を廃して町名を定め、従来の15区に新しい20区を加えて、大東京市35区となったが、この便覧は35区の町名を各区ごとにまとめたものである。従来の15区は、そのままを、新たに編入した20区は旧町・大字・字名と新町名を対比して掲げ、分かりやすくしている。

番号 477

軍艦に関する資料 (ぐんかんにかんするしりょう)

JSFJ00096

刊行者 ***

刊行年月

所蔵者 海上保安庁海洋情報部

備考

- ◎日本及欧州諸大国海軍費対照表(表)
上記の冊子を 38 cm × 57 cm 大の紙に一覧表として印刷されている。部数は2部。
- ◎軍艦製造記事
明治16年度から明治25年度の軍艦製造の計画、製造場所・費用を記した冊子。部数は2部で、和紙に印刷されている。
- ◎日本及欧州諸大国海軍費対照表(冊子)
佛国議院予算報告の抄録で、1871年度から1889年度の日本・英・佛・伊・獨・露・澳の各國の歳出総額、海軍費総額、歳出に対する百比をまとめた表を綴っている。和紙に印刷されている。
- ◎欧州諸大国軍艦一覽表
佛国議院予算報告の抄録で、英・佛・伊・獨・露・澳の各國の各種軍艦ごとの隻数をまとめた表。この他に欧州諸大国海軍勢力対比表、海軍軍人対照表、海軍軍人及軍艦噸数比例表、日本及欧州諸大陸海軍費、欧州諸大国海軍勢力商戦軍艦噸数比較表が綴られている。和紙に毛筆で書かれている。
- ◎翌年経費艦噸數対照一覽
明治4年から明治23年の経費と噸数をまとめた表で、同期間の「累年各艦船存廃一覽」も一緒に綴られている。部数は2部で、和紙に印刷されている。

番号 485 小笠原島概観 (おがさわらじまがいかん) JSFJ00097

刊行者 水路部 刊行年月 s12.07 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

文禄2年(1593年)7月26日、信州深志(松本)の城主 小笠原民部少輔が八丈島の南に群島を発見して小笠原と命名してから明治に至るまでの小笠原の沿革、位置、気候、地質、明治から昭和初めにかけての行政、財政、土木、施設、産業、交通及び通信、宗教、教育、兵事、衛生についての概説

番号 500 米国及び英国に対する宣戦の詔書 (べいこくおよびえいこくにたいするせんせんのみことのみりしよ) JSFJ00098

刊行者 水路部 刊行年月 s.16.12 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

番号 593 終戦関係水路部提出資料 (しゅうせんかんけいすいろぶていしゅつしりょう) JSFJ00099

刊行者 水路部 刊行年月 s20.08 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

番号 水路學會報告 第壹号 (すいろがっかいほうこく だい1ごう) JSFJ00101

刊行者 海軍水路部 刊行年月 m19.08 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

發會録事 会の由来、そして水路の学は世界万国交通を開くもので、欧米各國の富強は、水路學の賜、例を英国 にとつて説明
水路學の起原 水路に因り世界各國と交通し、知識を交換し、相易ふるには、水路學が必要。その基を開いたポルトガル国王ジョン第一世の第四皇子について記述
台風論 米国、英国の台風の研究者の紹介と航海者の安危に関する台風の発生・風向・風速・進路などの説明
羅針盤の組織併用法 羅針盤の構造、使用上の注意、磁気差の改正方法を説明

番号 水路學會報告 第貳號 (すいろがっかいほうこく だい2ごう) JSFJ00114

刊行者 海軍省水路局 刊行年月 m17.06 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

本會録事 明治17年6月22日に開いた第2回小集会の記録
台風論承前 台風の発生時季、規模、スピード、進路及び危険な範囲について説明
羅針盤の組織併用法承前 船体磁気についての説明
海上距離測定法 ラッセル氏測定法(六分儀を用い、船上より高さが既知の目標物の高さを測定して目標物と船間の距離を知る方法)
音響距離測定法 砲火視認時と響音の時間差から距離を知る方法
羅馬字書式 英字を画く時の書式について

番号 水路學會報告 第參號 (すいろがっかいほうこく だい3ごう) JSFJ00115

刊行者 海軍省水路局 刊行年月 m17.09 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

本會録事 7月18日の談話会、9月20日の小集会の記録
台風論承前 風邪の旋転方向、気圧の変化、波浪の規模などを知り、台風による危険予防に努める必要あり
普通・固有引水術 普通引水術(陸地近傍を帆走する航法)、固有引水術(遠く陸地を離れて海洋を航行し地上の物体に代えて天体により位置を知りながら帆走する航法)を行う際の知識について

番号 水路學會報告 第四號 (すいろがっかいほうこく だい4ごう) JSFJ00116

刊行者 海軍省水路局 刊行年月 m17.10 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

本會録事 10月18日の第四回小集会の記録
航海氣象學 英国の氣象学者ラフトン氏が英国海軍大学校において1874年~1876年に3回演説したものの抄訳(航海氣象の予報の研究の必要性について)
羅馬字書式承前 前回述べた羅馬字の書式の補足
泰西航海小史 西洋における造船の進歩史、海權擴張史、紅海漸進史、羅針盤の發明などを、例を挙げながら説明

番号 水路學會報告 第五號 (すいろがっかいほうこく だい5ごう) JSFJ00117

刊行者 海軍省水路局 刊行年月 m17.11 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

本會記事 11月15日の第五回小集会の記録
風速の測定 驗風器(風速計)の取り扱い、使用方法について
風力を求める法 風力についての解説

番号	水路學會報告 第六号 (すいろがっかいほうこく だい6ごう)	JSFJ00113
刊行者 備考	海軍省水路局 m17.12	所蔵者 海上保安庁海洋情報部
番号	日本船路細見記 (にほんせんろさいけんき)	JSFJ00103
刊行者 備考	大坂書肆 天保13	所蔵者 海上保安庁海洋情報部
天保13年刊行の航路案内記。各地の港湾・気象・潮汐・航路及び航海に必要な心得などをまとめた書物。携帯用の小型本。		
番号	安政7年庚申歳晴雨考 (あんせい7ねんこうしんさいせいこう)	JSFJ00104
刊行者 備考	*** 安政07	所蔵者 海上保安庁海洋情報部
番号	廻船安乗録 (かいせんあんじょうろく)	JSFJ00105
刊行者 備考	*** 1810 航海運用心得 文化07	所蔵者 海上保安庁海洋情報部
番号	理学入式遠西観象図説 上 (りがくにゆうしきえんせいかんしょうずせつ じょう)	JSFJ00106
刊行者 備考	*** 文政06	所蔵者 海上保安庁海洋情報部
番号	幕府時代の長崎 上下 (ばくふじだいのながさき じょうげ)	JSFJ00107
刊行者 備考	水路部 長崎市役所 m36.10	所蔵者 海上保安庁海洋情報部
番号	亜米理加合衆国航海学書付録率表 (あめりかがしゅうこくこうかいがくしょふろく りつひょう)	JSFJ00108
刊行者 備考	*** ジョンマンジロウ 安政04	所蔵者 海上保安庁海洋情報部
合計22種類の色々な率表(対数表)などが記載されている。 詳細については、別添の「私手附中濱万次郎亜墨利加学之儀に付伺書」、「亜美理加合州国航海習学書」に掲載されている。 昭和11年12月17日 中濱 東一郎氏(万次郎子孫)から寄贈された。 明治初年水災に遭い、本書は水没のため一塊の物と化したため、昭和9年現状に修復できたので、海軍水路部へ 寄贈された。 (和紙を洋紙に貼りつけ修復されている) 第二区域を第一区域に編入し、約1600版の海図発行の計画、見積書		
番号	大日本国沿海略圖 (だいにっぽんこくえんかいりやくず)	JSFJ00109
刊行者 備考	慶応03	所蔵者 国立公文書館
番号	測量稿 (そくりょうこう)	JSFJ00110
刊行者 備考	嘉永6年	所蔵者 津図書館・有造館文庫

番号 機密海図(きみつかいず) JSFJ00111

刊行者 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

番号 東郷平八郎書(明大海)(とうごうへいはちろうしょ(めいたいかい)) JSFJ00112

刊行者 刊行年月 所蔵者 海上保安庁海洋情報部
備考

リスト作成 2012年